

# 社会福祉法人 北区社会福祉協議会 福祉教育プログラム実施ハンドブック (学校向け)



北社協の福祉教育プログラムは、

「北区歳末たすけあい共同募金」を財源に実施しております。

(プログラム実施に係る費用は無料です)

**実施3か月前にお申込みください**



## はじめに

本会が実施するプログラムは、教職員と地域住民・関係機関・団体等が協力をして進めていくもので、以下の事項の達成を目指して推進及び展開を図っています。

- (1) 「福祉」が特別な人のためのものではなく、自分や家族の生活に関係することを学ぶ機会を提供する。
- (2) 自分自身の課題を解決しうる福祉制度や社会保障制度について学ぶことで、生活力の形成につなげる。
- (3) 区内の福祉団体の活動状況などについて知り、学ぶ機会を提供することで、福祉活動等への参加や各団体の活動の応援団づくりにつなげる。
- (4) 地域の福祉課題について学ぶ機会を提供する。

### ～プログラム実施を考えている先生方へ～

本会の福祉教育プログラムは、学校側の要望を伺いながら、地域の機関・団体に協力をいただき、プログラムを提供しています。児童・生徒にとってより効果的なプログラムを先生方と一緒に考えるため、以下のお願いをさせて頂いております。

北社協が直接提供するプログラムについては、実施**3か月前**までにご相談ください。

※実施は先着順のため、申込状況によってはご希望にそえないこともあります  
(場合によっては、プログラム提供団体を紹介させて頂くことも可能です)



より良いプログラム実施のために、ご協力をお願いいたします。

## 大切にしていること

提供するプログラムは、児童・生徒の「気づき」「共感」を促し、「行動」に結びつくような内容を心がけています。そのため、当事者の講話・交流、疑似体験、スポーツやゲーム、関連物品のご紹介など、多様なものになっています。

### 「気づき」

わたしたちの地域には、高齢者、障がい者、子ども、妊産婦、外国籍の方など、さまざまな人が生活しています。

そのような方々に関心を向けると、どのような価値観をもち、どのように生活をしているかということに気がつきます。その「気づき」が大切です。

### 「共感」

それらの人たちとのふれあいを通じ、その生活や思いを自分自身のこととして感じられるようになります。これが「共感」です。

北区社会福祉協議会では、この共感する心を育てることを、とても大切にしています。

### 「行動」

「気づき」や「共感」がえられた後、自分の生活の中で、周りにいる人たちに対し、どのように関わっていくか自発的に考え、実際に「行動」に移すことが期待されます。

## 目次

目次.....	1
福祉教育プログラムのご案内.....	2
プログラム一覧.....	3
プログラム実施までの流れ.....	4
プログラム例.....	5
視覚障がいの理解（疑似体験・スポーツを通じた学習）.....	5
視覚障がいの理解（点字を通じた学習）.....	7
肢体不自由の理解（車いす体験を通じた学習）.....	9
補助犬の理解（障がい者に対する支援の様子を「補助犬」を例に学習）.....	11
民生委員・児童委員交流（地域で活動する民生委員・児童委員からお話を聞く）.....	13
事前学習例 ワークシート.....	15
事後学習例 発表会.....	17
物品貸し出しについて.....	19
実施申込書.....	21

# 北区社会福祉協議会 福祉教育プログラムのご案内

“ふれあい” “体験” をテーマとしたプログラムをご提案します

私たちのまち北区の将来を担う子どもたちに  
地域とふれあい、“こころ”を育むためのご支援をします。



## 講 話

障がい当事者から、障がいのこと、生活のことなどのお話を聞き、Q&Aの時間では、子供たちの疑問や関心のあることにお答えします。



当事者から直接お話を聞くことで、「共感」がうまれます。

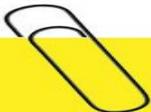


## 体 験

疑似体験や障がい者スポーツ体験を通したアクティブラーニングを行います。



高齢者・障がい者の日常生活を体験することで、他者に対する「気づき」を促します。



## 振り返り

学んだことを発表しあい、共有することで、人によって様々な思いをもっていることを理解します。



学校独自のプログラムの実施にもつながります。



## プログラム一覧（こちらを参考にご相談いただくことも出来ます）

■講習内容：目的や学年に応じた基本プログラムをご用意しています。

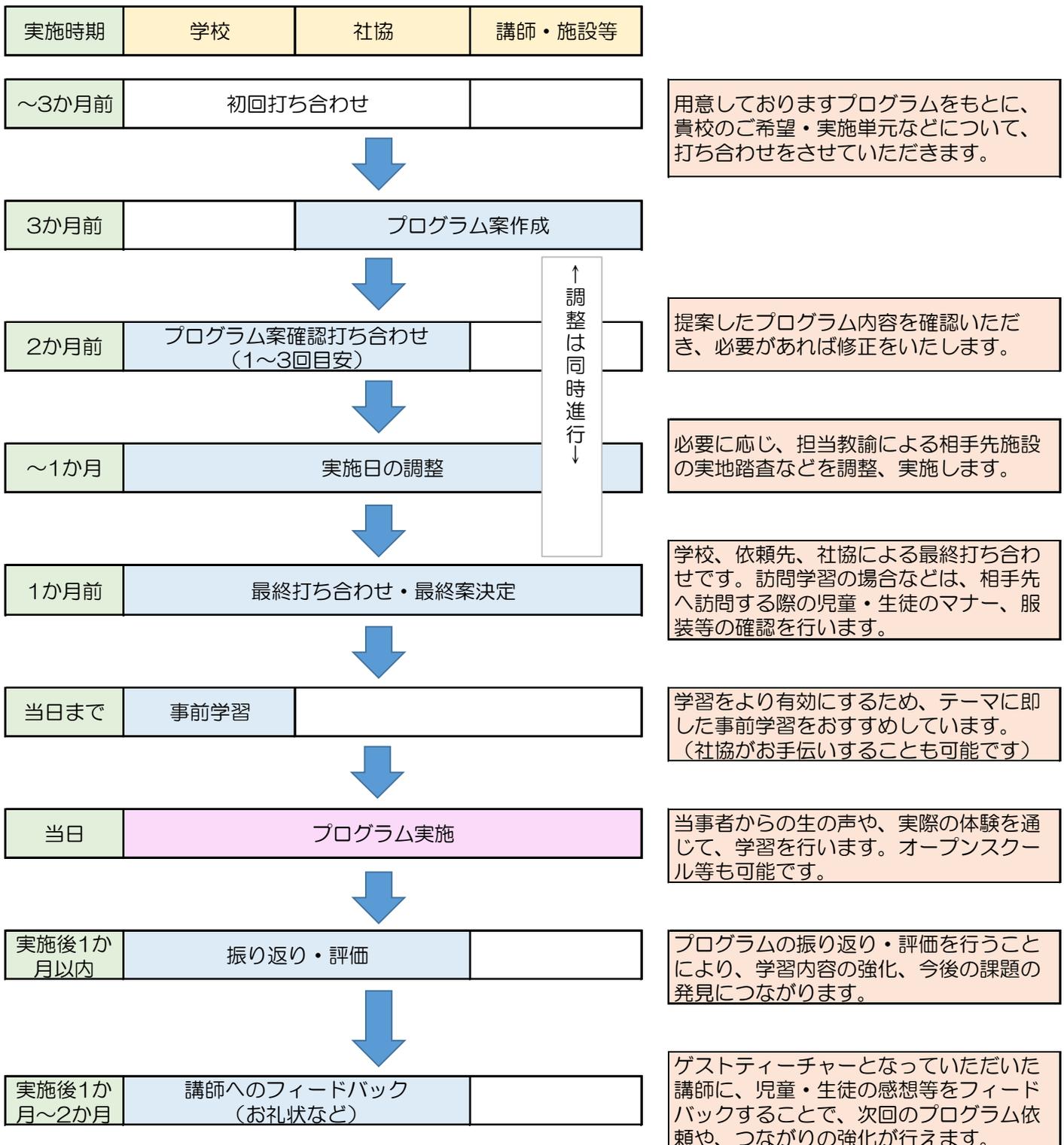
■所要時間：2単元から連続講座までご要望に応じて対応いたします。

No	プログラム	プログラム概要	備考
1	ユニバーサルデザインの理解	ユニバーサルデザイングッズの紹介	
2	視覚障がいの理解	障がい当事者の講話 ユニバーサルスポーツ アイマスク体験 点字体験	サウンドテーブルテニス・サッカー ブラインドウォーク・誘導體験
3	肢体不自由の理解	障がい当事者の講話 ユニバーサルスポーツ 車いす体験	
4	聴覚障がいの理解	障がい当事者の講話 手話体験	手話でのコミュニケーション
5	補助犬の理解	補助犬法の理解 補助犬を利用する方との関わり方 補助犬デモンストレーション	介助犬、聴導犬、盲導犬
6	高齢者理解	高齢者との交流 高齢者施設職員の講話	
7	地域理解	民生委員・児童委員交流 バリアフリーマップ作り 地域探検ツアー 地域交流 地域課題	ワークショップ
8	異文化の方の理解	異文化の理解	言語、慣習、文化
9	障がい者スポーツの理解	パラリンピアンとの交流・講話 交流・体験（スポーツ）	

※プログラム申込書は最後のページにあります

## プログラム実施までの流れ

本会の福祉教育プログラムは、学校側のご要望を伺いながら、児童・生徒の学びをより一層深められるように、障がい当事者・団体、地域のボランティア、関係機関・団体にご協力をいただき、プログラムを提供しています。そのため、プログラム作成段階で数回打ち合わせの場をもうけさせていただいております。お申し込みは原則 3 か月前までをお願いいたします。



# プログラム例

## 1. 視覚障がいの理解ー① 疑似体験・スポーツを通じた学習

【ねらい】

- ① 「視覚障がい」に関する正しい知識を得る
- ② 体験と当事者の講話を通じて、当事者の気持ちの理解、共感へつなげる
- ③ 学習を通して自分たちにできること、行動するきっかけ作りをする

単元の目安：1～3 単元

対象学年：小学校3年生～中学校3年生 ※ブラインドウォークは、小5～推奨

対象人数：10～100名程度 ※左記以上の人数の場合はご相談ください

実施場所：教室、体育館、図書室 ほか

使用教材：アイマスク、サインガイド（筆記用具）、ユニバーサルデザイングッズ ほか

実施時期：通年

講師：視覚障がい当事者団体など



当事者の講話



ブラインドウォークでの歩行体験



道具（触読定規）やゲーム・スポーツを通じた各種体験

## 【プログラムの大まかな流れ】

	内 容	詳 細	備 考
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 視覚障がいに関する調べ学習</li> <li>◆ 学校や地域のバリアの調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 視覚がいの症状やお困りごとについて調べる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がいも色々な症状があること</li> <li>・先天的、後天的な障がいについて</li> </ul> </li> <li>◆ 学校や地域の中の普段利用している場所のバリアを、「自身の目が不自由だったらどうするか」想像しながら探してみる。</li> </ul>	事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)
当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 当事者の講話</li> <li>◆ 体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 視覚障がい者がどのような日常生活を送っているか、普段どのようなことで手助けが必要か知る。</li> <li>◆ 体験を通じ当事者のお困りごとやお気持ちを共感する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイマスクを使用するゲーム</li> <li>・ブラインドウォーク</li> <li>・ユニバーサルデザイン商品の使用</li> <li>・スポーツ体験 ほか</li> </ul> </li> </ul>	事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします  グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プログラム終了後の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学習を通しての振り返り                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表（会）</li> <li>・感想文</li> <li>・新聞づくり ほか</li> </ul> </li> </ul>	対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします

### プログラム後にいただいたご意見

今までは自分には関係ない事だと思っていました。  
 学びを通して自分も何かの役に立ちたいと思えるようになり  
 ました。(中学3年生)

## 2. 視覚障がいの理解② 「点字」を通じた学習

【ねらい】

- ① 点字体験を通して、視覚障がいに対する理解へつなげる
- ② 当事者からの話を聞くことで、児童・生徒が障がい者と会ったときに何ができるのか、心遣いや、行動に気づく

単元の目安：2～3 単元

対象学年：小学校3年生～中学校3年生

対象人数：10～100名程度

使用教材：点字器、アイマスク、サインガイド、ユニバーサルデザイングッズ ほか

実施時期：通年

講師：点訳グループ 視覚障がい者 特別支援学校教諭 ほか



点字についての講義



自分の名前などを点字で打つ体験



点字を用いた絵本や道具のご紹介

## 【プログラムの大まかな流れ】

	内 容	詳 細	備 考
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 視覚障がいに関する調べ学習</li> <li>◆ 身近にある点字を使った道具の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 視覚障がいによって、日常生活においてどのような不便さがあるのかを考える</li> <li>◆ 身近にある点字を探してみる               <ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターボタン、自販機 ほか</li> </ul> </li> </ul>	各学校で実施していただきます 事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)
当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 当事者の講話</li> <li>◆ 点字についての講義</li> <li>◆ 点字体験</li> <li>◆ (発展学習) 「ユニバーサルデザイン」の考え方の講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 視覚障がい者の普段の生活について学ぶ</li> <li>◆ 点字の役割、使用する道具、読み方、打ち方などについて学ぶ</li> <li>◆ 自分の名前などを実際に点字で打つ 自分で打った点字が正しくできているか、当事者に読んでいただく</li> <li>◆ ユニバーサルデザインを知ること、様々な工夫により障がいがあっても普通のくらしができることを学ぶ</li> </ul>	事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします  グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プログラム終了後の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学習を通しての振り返り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表(会)</li> <li>・感想文</li> <li>・新聞作り ほか</li> </ul> </li> </ul>	対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします

### プログラム後にいただいたご意見

プログラムの中で障がい者スポーツに興味を持った児童が多く、事後学習として障害者スポーツセンターへ行きました。(小学校教諭)

### 3. 肢体不自由の理解 車いす体験を通じた学習

#### 【ねらい】

- ① 障がいや病気などについて正しい知識を得る
- ② 障がい者が、どのような場面で不便に感じているか知る（車いす体験）
- ③ 学習を通して自分たちにできること、行動するきっかけ作りをする

単元の目安：1～3 単元

対象学年：小学校3年生～中学校3年生

対象人数：10～100名程度

実施場所：体育館 ほか

使用教材：車いす、移動する際のバリア（段差等に利用できるもの、ロイター板など）

実施時期：通年

講師：肢体不自由者当事者団体など



当事者の講話



当事者との質疑応答



車いす体験（押す側・乗る側両方を体験）

## 【プログラムの大まかな流れ】

	内容	詳細	備考
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 身近な場所でのバリアの調査</li> <li>◆ 肢体不自由について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学校や地域の中でのバリアを考える               <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすを使うときに支障がでる段差など</li> </ul> </li> <li>◆ 車いすを使うことになるのはどのような原因があるか考える               <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気や障がいだけでなく、怪我などの理由もあることを知り、身近なことであると気づく</li> </ul> </li> </ul>	<p>各学校で実施していただきます</p> <p>事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)</p>
当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 当事者の講話</li> <li>◆ 疑似体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 肢体不自由者がどのような日常生活を送っているか、普段どのようなことで手助けが必要かを知る</li> <li>◆ 事前学習や体験を通じて生じた疑問を当事者に伺う</li> <li>◆ 車いす体験               <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず自分の足で歩き、次に車いすでコースを回る</li> <li>・車いすを押す側、乗る側、それぞれの場면을体験する</li> <li>・自分の足で歩いたときに気にならない段差なども、車いすに乗ると大きなバリアとして感じられる</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします</p> <p>グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います</p>
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プログラム終了後の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学習を通しての振り返り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表（会）</li> <li>・感想文</li> <li>・新聞作り ほか</li> </ul> </li> </ul>	<p>対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします</p>

### プログラム後にいただいたご意見

体の不自由な人や困っている人を見かけたら積極的に声を掛けていこうと思います。(小学3年生)

## 4. 補助犬の理解 障がいの者の支援の実際を「補助犬」を例に学習

【ねらい】

- ① 身体の不自由な人のために働く補助犬の種類や役割を知る
- ② 児童・生徒が補助犬と暮らす人や障がい者に出会った際にどのような支援ができるかを考え、行動するきっかけ作りを行う

単元の目安：2 単元～

対象学年：小学校3年生～中学校3年生

対象人数：10名程度～100名

実施場所：教室、体育館 ほか

使用教材：補助犬

実施時期：通年

講師：（公財）日本補助犬協会 補助犬関係団体 ほか



聴導犬

講話、質疑応答



盲導犬

補助犬による支援のデモンストレーション



補助犬への指示だし

## 【プログラムの大まかな流れ】

	内 容	詳 細	備 考
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 補助犬に関する調べ学習</li> <li>◆ 地域の補助犬のマークを調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 視覚障がい者がどのような場面で困っているか、また、盲導犬、聴導犬、介助犬それぞれがどのような役割を担っているかを調べる</li> <li>◆ 地域のどのような場所に補助犬のマークがあるかを調べる               <ul style="list-style-type: none"> <li>・レストラン、公共施設など</li> </ul> </li> </ul>	事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)
当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 当事者の講話</li> <li>◆ 補助犬に関する講話</li> <li>◆ 補助犬のデモンストレーション</li> <li>◆ 体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 補助犬の役割、利用する人、関わり方について学ぶ</li> <li>◆ デモンストレーションを通じ、各種補助犬による支援を知る</li> <li>◆ 実際に補助犬への指示などを体験 まちで補助犬を見かけたときの接し方について学ぶ</li> </ul>	事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします  グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います  犬が苦手な児童・生徒には配慮いたします
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プログラム終了後の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学習を通しての振り返り               <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表（会）</li> <li>・感想文</li> <li>・新聞作り ほか</li> </ul> </li> </ul>	対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします

### プログラム後にいただいたご意見

補助犬を連れている人や、補助犬の働きがどんなものかわかって良かったです（小学3年生）

## 5. 民生委員・児童委員交流 地域で活動する民生委員・児童委員からお話を聞く

### 【ねらい】

- ① 地域で暮らす人のことを知る
- ② 困った時に相談にのってくれる民生委員・児童委員について知る
- ③ 地域の課題に対して、自分たちに何ができるかを知る

単元の目安：2 単元～

対象学年：小学校 3 年生～中学校 3 年生

対象人数：10 名程度～100 名

実施場所：教室、多目的室、体育館 ほか

使用教材：ユニバーサルデザイングッズ、体験教材 ほか

実施時期：通年（担当いただく民生委員・児童委員と調整）

講師：民生委員・児童委員 ほか



講話、質疑応答



協力してグループ内の意見を発表



ユニバーサルデザインに触れてみる

## 【プログラムの大まかな流れ】

	内 容	詳 細	備 考
事前学習	◆ 調べ学習	◆ 地域の人々が安心して暮らすために、どのような「支え」が必要か、家族や周囲の大人に聞いてみる ・高齢者や障がい者、妊産婦が安心して暮らすために、自分たちは何ができるか	事前学習を行うことによって、当日のプログラムの理解が深まります (時間の取れない場合はご相談ください)
当日	◆ ユニバーサルデザイン学習  ◆ 民生委員・児童委員の講話  ◆ グループワーク	◆ ユニバーサルデザイングッズ体験 ・シャンプー、リンスボトル、サッカーボール、醤油さし、歯磨き粉等、身近なユニバーサルデザインの製品を触ってみる  ◆ 民生委員・児童委員の活動紹介  ◆ 地域の課題についてみんなで考えよう ・みんなが住みやすいまちにするために自分たちは何ができるか	事前学習で得た知識を深め、生じた疑問の解決の場とします  グループワークなどで、児童・生徒間で、感じたこと、学んだことの共有なども行います
事後学習	◆ プログラム終了後の取り組み	◆ 学習を通しての振り返り ・発表（会） ・感想文 ・新聞作り ほか  ◆ 実践 ・生活の中で実践する	対象学年に合わせた進め方につきましてご提案いたします

### プログラム後にいただいたご意見

民生委員・児童委員がいつからの活動なのかもっと知りたい（小学5年生）

ユニバーサルデザインで高齢者や障がい者のことが少しわかってきた（小学5年生）

事前学習例 視覚障がい者の理解 ワークシート

視覚障がい者がホームから転落／列車と接触

視覚障がい者が駅のホームから落ちたり、列車と接触したりする事故が、2009年度からの6年間で428件あったことがわかりました。視覚障がい者に限らない転落・接触事故全体で見ても、統計を取り始めた09年度が2635件、14年度が3900件と増える傾向にあります。

東京メトロ銀座線で15日、盲導犬を連れて歩いていた男性がホームから落ちて亡くなる事故が起きました。国土交通省は利用者が多い駅や要望が多い駅などでホームドアや点字ブロックの設置を急ぐよう鉄道各社に求めています、対策はおくれています。

朝日小学生新聞（2016年8月21日付）より引用

<http://www.asagaku.com/shougaku/arekore/7347.html>

\*\*\*\*\*

この記事の中には、視覚障がい者の安全のために考えられた、どのような道具（ユニバーサルデザイン）が書かれているかな？

Empty rounded rectangular box for writing answers.

なぜそうした道具などがあっても、事故がおきてしまったのかな？

Empty rounded rectangular box for writing answers.

ぼくたち、わたしたちだったら、どうやって事故を防ごうするかな？

Empty rounded rectangular box for writing answers.

\*対象となる児童や学年に合わせた内容にしています。

**こんなユニバーサルデザインのものもある！**  
**私はこんなユニバーサルデザインを見つけた！！**



**こんな工夫がされています・・・**

- ・ 駅に多機能トイレがあった！
- ・ 色とイラストで男、女、多機能トイレの区別がわかりやすくなっている。
- ・ 入口に段差がない
- ・ 入口に点字ブロックがついている

## 事後学習例 発表会

福祉教育プログラムで学んだことをもとに、さらに調べ学習を行ったり、模造紙にまとめたり、クイズや紙芝居にしたりなどの工夫をして発表していただきました。



ユニバーサルデザインについて発表



クイズにして発表



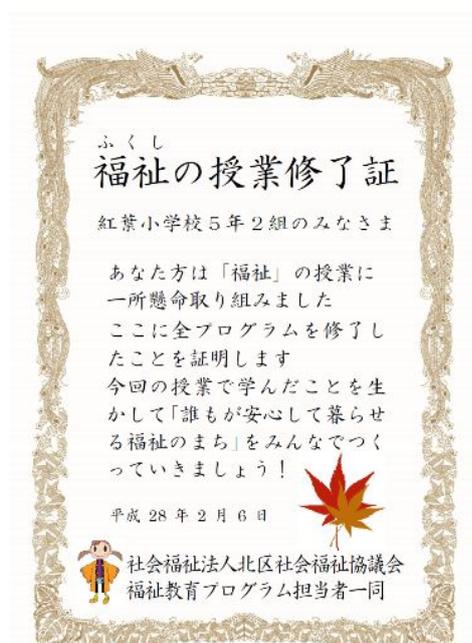
寸劇をして発表



模造紙にまとめて発表



最後に北社協より「福祉の授業修了証」をお渡ししています。



プログラムのご相談など、お気軽にご連絡ください。  
一覧にないプログラムでも、ご相談により実施可能な場合がございます。  
(P21の実施申込書も、ご活用ください)

**北区社会福祉協議会  
公式キャラクター紹介**

**アイちゃん**

～ ささえあい たすけあい Can I Try? ～

北社協広報誌「きたふくし」やホームページ等でおなじみの、元気がかわいらしい女の子「アイちゃん」が、60周年を機に北区社会福祉協議会の公式キャラクターとして任命されました。

アイちゃんの名前の由来は、北社協のモットーでもある「ささえあい、たすけあい」の「あい」からきています。

アイちゃんは、北社協の広報大使として様々な場面で活躍していく予定です。皆様にとってアイちゃんがより身近な存在になりますよう、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

**応援してね!**

私はアイちゃん。  
北区が大好きで、  
毎日楽しく  
暮らしています!

これからは、北社協の  
広報大使として、いろ  
いろなところで活躍し  
ます!

明るくて元気いっぱい!  
みんなのことを元気に  
したくて毎日駆け回っ  
ています。

**アイちゃんの部屋**

北社協のホームページでも、福祉教育の取り組みを掲載しています。ぜひご覧ください。  
<http://kitashakyo.or.jp/gakusei/fukushi-2/>

## 物品貸し出しについて

本会では、小・中学校での授業をはじめ、福祉教育を目的とした活動に対し以下の物品の貸し出しも行っています。ご希望の際は、お問合せのうえ、P20の申請書をご提出ください。

物品リスト			
分類	物品	在庫数	備考
書籍/DVD	絵本		【書籍】
	料理本		【書籍】
	法テラス点字説明		【書籍】
	点字の打ち方解説		【書籍】
	UDってなあに？		【書籍】
	補助犬DVD		【DVD】
ユニバーサル デザイン（UD） グッズ	歯みがき粉		
	醤油さし		
	液体用ボトル		
	シャンプー・リンスセット		
	音声付き電卓		
	音声付き時計		
	カレンダー		
	かるた		
	マイキャッシュケース		
	スティックのり		
	サッカーボール		
	ピンポン玉		
体験グッズ	白杖		【視】
	アイマスク		【視】
	ロービジョン体験セット		【視】
	視野狭窄体験メガネ		【視】
	視覚障がい体験ゴーグル		【視】
	白濁体験ペーパー		【視】
	サインガイド		【視】
	点字一覧表		【視】
	点字ブロック		【視】
	定規		【視】
	サイコロ		【視】
	車いす		【身】
	軍手		【高】
その他	ヘルプカード		

【視】：視覚障がい 【身】：身体障がい 【高】：高齢者

社会福祉法人 北区社会福祉協議会  
福祉教育物品貸与申請書

年 月 日

【申請者】

団体名			
所在地	〒	連絡先	TEL
フリガナ			
担当者氏名			

イベント名			
実施場所名			
実施日時	月 日 ( )	: ~ :	実施回数
	※2回以降開催日はここへ記載ください。		計 回
実施内容			
貸与物品			
物品受取日	月 日 ( )	:	
物品返却日	月 日 ( )	:	
搬出入担当者	(当日の連絡先: )		
備考			

- ※ご記入いただいた個人情報については、貸与物品管理業務を行う目的の範囲内で利用いたします。
- ※貸出しを受けた用具の保守は申請者が行うものとします。損傷・破損等状況により、修繕費を請求する場合があります。
- ※申請者は、参加者等の安全確保に十分配慮するものとし、貸与した用具により万一事故等が発生したときは、申請者の責任において対応するものとします。

受付者記入欄

貸出日	印	返却日	印

福祉教育プログラム 実施申込書 (fax 用)

申込日：平成 年 月 日

学 校 名	
ふ り が な 担 当 教 諭 名	
電 話 番 号	
メ ー ル ア ド レ ス	
対 象 学 年 ・ 人 数	
希 望 内 容	希望プログラム No. ( ) 【コメント】  基本プログラム一覧 (P3) より お選び下さい。またご要望がご ざいましたら、コメント欄にご 記入下さい。
ご 希 望 日	月 日 ( 時限) <u>実施 3 か月前までにお申し込みください。</u>
希 望 実 施 回 数	単元 日 例) 2単元 1日
実 施 場 所	

お問い合わせ・お申し込み先

社会福祉法人 北区社会福祉協議会 福祉教育担当  
営業時間 平日8時30分～17時15分

Tel03-3906-2352 / Fax03-3905-4653